

令和6年度

事業計画書

学校法人 亜細亜学園

## 令和6年度事業計画について

学校法人亜細亜学園は、令和6年度事業計画を以下のとおり策定する。

### 1. 基本方針

本学園は、建学の使命及び建学の精神に基づき平成28（2016）年に「亜細亜大学中長期計画—アジア未来マップ2025」を確定し、そこで示した「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」というミッションを実現するため、中期行動計画を作成し、2期にわたりその実現に取り組んできた。

令和4（2022）年度に始まった「第3期5カ年中期行動計画」は、ビジョンを「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」と一部修正し、ミッションの実現を図る行動計画とした。

令和6（2024）年度は5カ年の3年目となり、当初各施策で掲げた目標実現に向け重要な中間地点を迎えている。本学は以下の重要課題に直面しており、可及的速やかに対処したい。

- （1）国際交流施策の改善（国際情勢の変化に対応した体制の再構築）
- （2）定員の継続的充足と志願者確保（社会的動向や実態に基づく入試制度等改編）
- （3）私立学校法改正への対応（実効性のあるガバナンス改革の実現）

令和6年度事業計画は、上述の現状を踏まえ、本学既存の資源（教育・研究・国際交流・スポーツ等）を積極的に活用し、中期行動計画の目標達成に向け、「アジア交流」、「学生の満足度向上」、「社会連携の拡充」を目指す。

特に、「選ばれる亜細亜大学」となるよう、都市創造学部の教育内容拡充と、文部科学省の大学・高専機能強化支援事業の理系転換に適合する新学部の設置準備を学園一体となって推進する。

### 亜細亜大学中長期計画2025

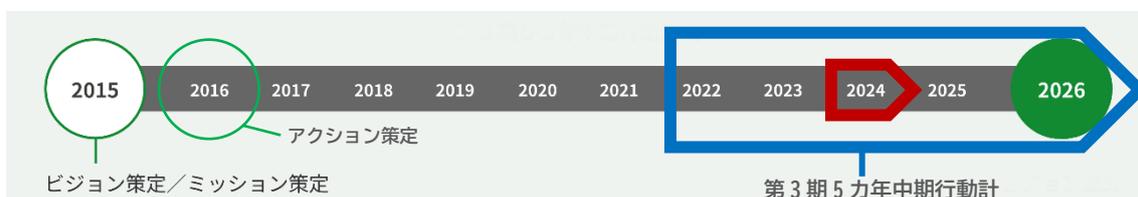
#### 「将来像」に向けての計画→【ビジョン】



#### 「行動計画の実行」と「評価」→【アクションプラン】（第3期中期行動計画を推進）



#### 1年ごとの「計画進捗の把握」と評価



## 2. 令和6年度重点項目 ―重点化施策と具体的な取り組み―

### (1) 国際化施策

#### 【1-1】実留学体験者数の増加と多様な国際交流機会の提供

- ・派遣留学先及び派遣期間の多様化の実現
- ・亜細亜大学アメリカプログラム（AUAP）短期版への移行案作成
- ・参加費減額など奨励金制度の整備・拡充案を提案し、参加者数前年度比10%増の実現

#### 【1-2】アジア地域を体験する学生数の増加

- ・アジアスタディーズプログラム（AUASP）20単位化による参加者増を実現
- ・アジア地域対象の中期プログラムを開発し実施案を編成
- ・留学生主催行事へ日本人学生を誘導しアジアへの強い興味を引く施策を実施
- ・アジア地域留学プログラムの参加者数増加を図るため積極的な広報活動を展開

#### 【1-3】アジア地域からの外国人留学生数の増加

- ・日本語学校及び進路担当教員との連携を強化するため幅広く訪問を展開（外国人留学生数前年度比10%増を達成）
- ・留学生授業料減免制度の改正施行による平等な奨学金給付制度の理解促進と定着
- ・大連外国語大学の編入学制度による受け入れ人数増加を図るための募集活動強化
- ・ジャパンプログラム（AUJP）改善に向け AUAP コンソーシアム大学及びアジア諸国の協定大学と協議し日本文化体験プログラムの改善案を策定
- ・「日本語教育機関認定法」成立等諸制度の変更に伴う留学生別科の存在価値を再検証

#### 【1-4】外国人留学生の活躍を広く学内外に周知

- ・ASEAN-JAPAN プログラムの運営体制を再構築し外国人留学生への教育活動を改善
- ・ASEAN 諸国留学生奨学金出資企業と奨学生との交流会の継続実施とインターンシップの活用等により多くの就職機会を提供
- ・日本での就職を希望する外国人留学生の就職決定率90%以上を達成するため、就職活動スキル向上の対策セミナーを実施（活躍する外国人留学生情報を収集し配信）

### (2) 教育・研究活動施策

#### 【2-1】「面白い」授業や「役に立つ」授業の促進

- ・社会変化に対応するため都市創造学部の教育内容拡充、文部科学省の大学・高専機能強化支援事業に対応した理系転換の新学部設置準備
- ・「面白授業及び役立つ授業」を一層増加させるため「ティーチングアワード」による教員表彰を継続実施
- ・「面白授業及び役立つ授業」の大学公式サイトでの紹介やニュースリリースを実施

#### 【2-2】学修の到達点及び学修特性を確認できる仕組みの構築

- ・アセスメントプランによる全学的な学修成果把握の実施
- ・MDASH プログラムにおける学修成果可視化システムの導入
- ・「学内基準ポイント」から「GPA」への移行と履修取消制度導入に向けた準備実施
- ・FD 研修会内で学修成果可視化システムの学修成果データを分析して活用案を作成

### 【2-3】 学生が社会で求められる能力や技法を修得できるよう指導強化

- ・ 本学の定める基礎知識として示した「21世紀亜細亜ベーシックス」継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）

### 【2-4】 「対面」と「オンライン」の特質を生かせるベストミックス授業体制の構築

- ・ 学生の受講機会を確保するため「対面」と「オンライン」ベストミックス授業体制の継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）

### 【2-5】 学生満足度向上につながる全学DX基礎対応の推進

- ・ 学生の利便性を向上させるため証明書オンライン発行の導入（令和6年10月稼働）
- ・ 新統合認証システムのリプレイスによる利便性の向上（令和6年4月稼働）

### 【2-6】 学生がデータサイエンス分野の基礎知識を修得できる仕組みの定着

- ・ 文部科学省認定のMDASHプログラム名称変更、データサイエンス教育の全学的体制の整備（文部科学省「MDASH」リテラシーレベル変更手続き、学科設置計画履行状況等調査対応）

### 【2-7】 研究活動の外部公表促進と内部共有充実

- ・ 大学公式サイトで最新の研究活動状況及び研究成果を情報発信
- ・ アジア研究サロンの開催による学内研究活動の内部共有と公開情報の充実
- ・ 研究費等の事務処理における電子帳簿法改正に対応した本学諸規程の改正

## （3）学修環境・支援施策

### 【3-1】 卒業年次生アンケートの回収率引き上げと学修環境の改善

- ・ 卒業年次生アンケート回収率向上の対策を実施（目標回収率70%以上）
- ・ 令和5年度アンケート調査結果を踏まえた学修環境の改善案を提案

### 【3-2】 快適で利便性が高い魅力あふれるキャンパスの構築と、迅速で親切なスタッフ対応の実行

- ・ 学生・教職員からのアイデアを反映したキャンパスマスタープランの策定
- ・ 学生ニーズの正確な把握による魅力あふれるキャンパス構築への改善案の提案

### 【3-3】 学内学生団体（部・サークル）活動の学生が充実した学生生活を送れる支援

- ・ 学友会の課外活動推進計画の点検と支援の実施
- ・ 顧問等の業務的関りの見直しによる学友会団体への適切な支援体制の構築

## （4）社会連携施策

### 【4-1】 学生が企業（社会人）及び地域社会と交流する機会を増やす

- ・ 大学主催の全学講演会の開催（外部講師と学生の接点を提供）
- ・ 多様な形で学生活動を支援することにより地域交流活動を推進

### 【4-2】 高校生向けアジアへの理解と関心を深める企画の展開

- ・ 第4回高校生アジアフォトコンテストの実施・拡充（応募者数前年度比20%増）
- ・ 高校との連携による、アジアをテーマに含む出張講義の企画と積極的な実施

#### 【4-3】卒業生と在校生の交流機会拡充

- ・就職強化のための卒業生と在校生との交流会の企画と実施・拡充（学部生・大学院生の就職率の向上）
- ・大学公式サイト及び SNS を通じて卒業生のニーズや興味に合ったニュースを継続して発信

#### 【4-4】研究成果を地域及び社会貢献に結びつける

- ・科目等履修生や社会人聴講生等広く地域・社会に向けた学部の授業公開を実施
- ・アジア研究所が主催するアジア関連公開講座の実施
- ・SDGs に関する公開講座の企画・実施
- ・武蔵野市寄付講座（経営学部データサイエンス学科）の実施による学習機会の提供

### 〔5〕大学運営施策

#### 【5-1】認知度向上と志願者の獲得

- ・都市創造学部の教育内容拡充や新学部の設置準備を全学的な規模で推進し、特色ある教育内容を周知するため幅広い広報展開を実施
- ・「ブランディング戦略」に基づく広報活動の強化・拡充による本学の認知度向上
- ・本学のアドミッション・ポリシーと志願者ニーズが適合する入学者選抜方法の改善による志願者数の増加（推薦試験関連志願者 10%増加）
- ・本学の財務情報公表のさらなる推進により信頼度を向上

#### 【5-2】本学の持続的発展を支えるガバナンス体制の構築

- ・私立学校法改正に伴う「亜細亜学園寄附行為」の変更（ガバナンス体制整備）
- ・「私立大学ガバナンス・コード」に基づく点検・改善・公表
- ・ガバナンス・コード内の提言である「学生納付金以外の収入の多様化」を踏まえた資金運用や施設利用収入の拡充
- ・ダイバーシティ推進宣言及び基本方針を制定し多様性受容の意識の醸成と環境整備を推進

#### 【5-3】DX 時代に対応可能な人材育成に資する ICT 教育環境整備及び電子化による大学事務の業務改善・効率化の推進

- ・事務業務並びに保存文書の電子化の推進
- ・事務 PC 統一化と顔認証システムやマルウェアの導入によるセキュリティ強化の実施
- ・総合学生情報システムをクラウド運用へ全面移行しクラウド回避対策を実施

#### 【5-4】教育・研究活動を安定的に支える財政基盤の構築

- ・綿密な予算編成と合理的な執行により経常収支差額比率 3.2%以上・経常収支差額 2 億円目標以上を達成

#### 【5-5】大学を取り巻く環境変化に対応できる事務職員の人材育成

- ・大学運営に必要な役職者対象の人事労務研修及び人事評価者訓練実施と効果検証
- ・目標達成のための能力向上研修及び専門的スキル習得プログラムの実施
- ・FD・SD 研修の充実（全員参加の達成）

### 【5-6】武蔵野キャンパス未整備地区の将来開発に向けたキャンパスマスタープラン策定

- ・新学部構想と連携した未整備西地区を含む武蔵野キャンパス全体のキャンパスマスタープランの策定
- ・既存建物の効率的活用（各種用途スペースの教室転用を含む）を目途とした改修実施

### 【5-7】SDGs 実現に向けた取り組みの推進と学内外への発信

- ・SDGs に関する各種取り組みの積極的な学内外への発信
- ・SDGs をテーマとした模擬授業実施のスキーム構築と取り組みの公表
- ・武蔵野及び日の出キャンパスの節電対策を推進

## 3. 人事

令和6年度の専任職員数は以下のとおりである。

教育職員（特任及び1号客員含む）								事務職員	総合計
経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	都市創造学部	アジア研究所	英語教育センター	合計		
50名	25名	31名	34名	16名	5名	28名	189名	133名	322名

（令和6年4月1日時点）

## 4. 財務

令和6年度予算については、5カ年中期財政計画で掲げる令和6年度の収支計画目標・資金計画目標に基づき、以下の通り編成する。

（1）令和6年度事業活動収支予算においては、経常収支差額を293百万円の収入超過（経常収支差額比率：3.20%）とする予算を編成し、安定的な財政基盤強化を推進する。

- ・令和6年度事業活動収支予算収支概要 経常収入：9,177百万円  
経常支出：8,884百万円
- ・5カ年中期財政計画目標(令和6年度) 経常収支差額：200百万円以上  
経常収支差額比率：2.5%以上

（2）令和6年度資金収支予算においては、翌年度繰越支払資金を4,350百万円とする予算を編成し、将来的なキャンパス施設の建替等に備えた資金計画を推進する。

- ・令和6年度資金収支予算収支概要 当年度収入：9,571百万円  
当年度支出：8,606百万円
- ・5カ年中期財政計画目標(令和6年度) 翌年度繰越支払資金：4,222百万円以上

## 5. 施設・設備

---

令和6年度の施設・設備関係予算は、合計577百万円である。

経年劣化が進む設備の更新計画に加え、能動的な学修を促進する教育環境の整備と充実化を継続的に進める。主な事業は以下の通り。

### (1) 太田耕造記念館 吸収冷温水機更新工事

- ・内 容：太田耕造記念館の冷温水機の劣化と不具合解消のため機器交換工事
- ・事業費：99百万円
- ・実施期間：令和6年10月～令和7年3月

### (2) 図書館リニューアル改修工事

- ・内 容：竣工30年の図書館のリニューアル工事を令和6、7年の2期に分け経年劣化の改修と学生ニーズに合った機能化工事を実施  
6年度は1階フロアの全面的リニューアルと学生の入館が容易となり雑誌や本を楽しめる憩いの場となる図書館空間を創出し、館内事務所を2階に集約し学修支援サービスの向上を図る改修工事
- ・事業費：40百万円
- ・実施期間：令和6年8月～令和7年3月

### (3) 硬式野球場防護マット改修工事

- ・内 容：劣化した硬式野球場防護マット（外野フェンス、バックネット）張り替改修工事
- ・事業費：42百万円
- ・実施期間：令和6年8月～令和6年9月

以 上

# 亜細亜大学中長期計画 ー新・アジア未来マップー

## 第3期5カ年中期行動計画

### ーアジア（亜細亜）からグローバルへー

#### I ミッション

建学の精神 「自助協力」

多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成

#### II ビジョン ー亜細亜大学の将来像

**「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」**

##### ○アジア交流の拠点となる

国際交流・国際連携を強化し、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる高い志と行動力にあふれた人材を育成し、アジア研究・交流の拠点大学となります。

##### ○すべての学生が充実感・達成感を得られる大学となる

知的関心を呼びおこす双方向的授業を軸に、学修者本位の教育体制を構築し、あわせて 多彩な課外活動の機会、快適なキャンパス空間を提供し、すべての学生が成長と満足を実感できる大学となります。

##### ○社会との連携を拡充し、社会貢献を更に推進する

大学の有する資源、研究成果を社会に還元し、また生涯学習及び地域活性化を促進し、あわせて社会貢献活動を通じて、学生の問題解決力、行動力を育てます。

#### III 第3期5カ年中期行動計画のスローガン・基本方針

第3期5カ年中期行動計画は、with コロナ、after コロナの状況に適切に対処しながら、Society 5.0、DX 等の急速な社会的変化に対応した教育を提供し、本学の強みである国際交流・連携の拡充により有能な国際人を多数輩出し、18歳人口の長期的減少下においても選ばれる大学となる施策を確実に実行するため、以下のとおりスローガンと7つの基本方針を定め、推進します。

##### 【スローガン】

楽しい大学・面白授業・アジアと共に ～選びたくなる 亜細亜大学～

##### 【基本方針】

- (1) アジア学修の浸透及び国際交流の持続展開(実留学・オンライン交流の両面体制の堅持)
- (2) 社会の変化に対応した新しい学科の開設による教育の拡充
- (3) 主体的学修力の育成強化
- (4) 楽しい大学・面白授業の構築
- (5) 社会連携活動の拡充
- (6) 広報活動の強化
- (7) ガバナンス体制の構築